

研究成果を発表する生徒たち



五所川原高 八戸北高 三本木高

## 理数系研究の成果堂々

### 弘大で発表会

県高校理数系課題研究発表会が12日、弘前市の弘前大学で行われた。五所川原高校理科、八戸北高と三本木高のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)クラスの研究発表会が、弘大の教員から助言を受けた。

化学分野では三本木高のグループが色つきのシャボン玉づくりをテーマに発表。食用色素でシャボン膜を着色し、濃度ごとの色の付き方の違いを検証し、「濃度20%以上でしっかり色がつき、濃度が高すぎると粒子が溶けきらず、シャボン膜が破れやすくなる」と結論づけた。

同グループの葉嶋啓介君(2年)は「シャボン玉に思ったよりも色がついた。6人で8カ月かけて研究した成果を披露できてうれし」と語った。

このほか五所川原高が「炭作りとその脱臭効果の検証」、八戸北高が「バイオエタノールの生成について」などのテーマで発表した。(尾坂拓哉)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。  
[問合せ先] 弘前大学工学研究科  
r\_koho@hirosaki-u.ac.jp